【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	三　重　県

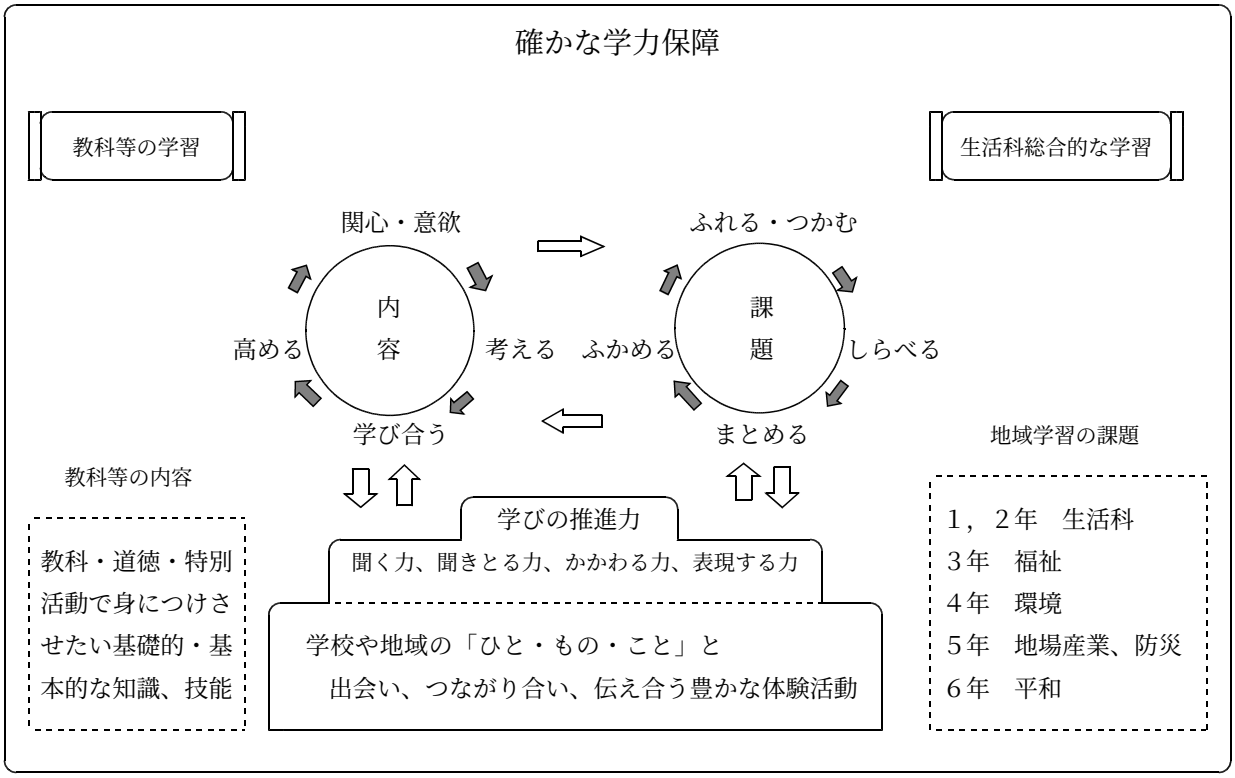
Ⅰ　学校の概要

学校名	尾鷲市立尾鷲小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	障害児学級	計	教員数
学級数	５	３	３	３	３	３	３	２３	３７
生徒数	１２４	１０７	１０９	１１４	１００	１０３	７	６６４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

生きる力をどう育むか
＝教科と総合による「確かな学力保障」を基盤として＝



２．研究内容と方法

（１）研究推進学年・教科・領域、分野

・全学年：生活科、総合的な学習の時間
　生活科・総合的な学習の時間等での豊かな体験活動により引き出された「学ぼうとする力」や「学ぶ力」といった「学び」を推進していく力が、教科等で身につけた「学んだ力」と相互関連しながら「確かな学力」の向上につながる研究に取り組むため。
・全学年：算数
　当該教科の授業づくり、教材づくりに関する研究実績があり、その上に立って、子ども一人ひとりの学力プロフィールに沿って、個人差に応じたきめ細かな指導を行うことが、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」をバランスよく育て、「確かな学力」の向上につながる研究に取り組むため。

（２）年次ごとの計画

平成 15 年度

○テーマ

生活科・総合的な学習の時間による「確かな学力保障」

○研究の見通し（仮説）

現在の子どもの実態や周囲の状況からすると「確かな学力」の形成には、学習指導と生徒指導をセットにした取り組みが重要である。日常の生活基盤や学習基盤の安定化が学力形成にも大きな影響を与えるはずである。実際日常の会話や学習への励ましや働きかけが豊富な家庭、学級ほど、学力が高い実態がある。こうした「確かな学力」のベースを築いていく学力保障の取組は学力向上にきわめて重要なことであると考える。

今年度は生活・学習基盤づくりや生活科・総合的な学習の時間で育てる「学ぼうとする力」「学ぶ力」が学校生活の安定化、教科学習の活性化を促進し、「確かな学力保障」につながることを研究する。

また、子ども一人ひとりに「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」をバランスよく育てるためのきめ細かな指導について研究する。

○研究の内容・方法

１）生活・学習基盤づくりや生活科・総合的な学習時間の充実が『確かな学力保障』につながることの研究

学んだ力

基礎的学力づくり	各教科
生活・学習基盤づくり （よりよい生活学習をおくれる力）	道徳、特活、総合的な学習の時間 生活科、豊かな体験活動

学ぼうとする力・学ぶ力

①生活・学習基盤づくりは、学校生活や学習を安定させ、基礎的学力づくりを推進する。

・豊かな体験活動を基盤にした生活科・総合的な学習の時間、特別活動、道徳等を中心にした生活・学習基盤づくりは、子どもたちに出番や居場所を与え、安心感や励ましにより、生活や学習を安定させている。そして、子どもたちから「学ぼうとする力」、「学ぶ力」を引き出している。

②生活科・総合的な学習の時間で育った「学ぼうとする力」「学ぶ力」は、各教科の基礎・基本の定着を推進する。

・生活科や総合的な学習の時間で育った「聞く力」「聞き取る力」「かかわる力」「表現する力」は学びの推進力としてはたらき、各教科の基礎・基本の定着をより確かなものにし、「確かな学力保障」につながっている。

２）子ども一人ひとりに「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」をバランスよく育てるためのきめ細かな指導の研究

① １年生 30 人学級（三重少人数）や少人数授業におけるメリットの研究

・子どもの授業参加度が高くなり「学ぼうとする力」を引き出しやすい。
（しかし、積極的に質問をするが、自ら考えるよりも教えてもらうための質問が目につくことがある。また、子どもがなついてくることで満足してしまう状況もある。あくまでも、子どもの主体的な学習を可能にしたい。）
・一人ひとりの学習状況が把握しやすく、個別対応を行うことができ「学んだ力」の見直し、定着が図れる。
・細やかな配慮が子どもに届くことによって、信頼感を育てることができる。
・少人数授業、ＴＴともに協力教授である。そのため教材や子どもの状況に応じた指導計画を立てる際、柔軟な指導形態を組み合わすことができ、子ども一人ひとりに問題解決のための「学ぶ力」も身につきやすい。
・効率的に授業を進め、余裕時間を個に応じた指導や、教師が開発した独自教材や副読本を活用することができる。

② 「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」をバランスよく育てるために、理解度・習熟度、課題に応じた一斉、小集団、グループ、個別などを組み合わせた多様な学習形態とＴＴを活用した指導法や学級分割の少人数対応での指導方法を研究

＜少人数指導のねらい＞

少人数指導は授業改善と指導改革であり、教えやすさをねらうのではなく、子ども一人ひとりに「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」をバランスよく育て、学びを促進するものでなければならない。また一方では、すべての子どもに「確かな学力保障」をしていくためのよりよい学習条件（教室環境、学習形態、教材教具等）の整備を進めながら、子ども主体の学習活動の開発を推進するものでなければならない。

＜少人数授業での留意点＞

・複数の教師による授業では、さまざまなメリットを生かすための授業計画が必須となる。とりわけ単元単位の計画が重要である。
・少人数授業については一般的に習熟度別指導のための条件整備という認識があるが、日々の実践を一歩一歩確かめながら進めてくれば、生徒指導の側面で生じる問題以外、学習内容の習得面でも効果は疑問である。個に応じた指導のための工夫の中で、習熟度別指導の優先順位はそう高いものではない。
・指導の過程でついてしまった習熟度の差に応じるため、単元の後半に形成テストを行い、その結果に基づいて指導をすることは重要である。しかし、当初から学力の違いを仮定して進める習熟度別よりは、適切な機会を設定しての個別指導、子ども同士の学び合いといった、子どもの状態や教材の室を考慮した柔軟な工夫によるべきである。

＜少人数授業の研究＞

～子どもが学習の主人公としての学び合う授業の創造をめざす～

・教師が「教える」授業から子どもが「学ぶ」授業へ
・グループ内での学び合いができる授業に
　　グループで何をするのかを明確にする。
　　だれが指名されても答えられるようにする
　　意見をまとめる

ア）単元単位で計画を立てる。
イ）多くの子どものアイデアを交流するときは、少人数ではなくＴＴで進める。
　具体的な中身の学習に入ると少人数に分割し、より密接な学び合い高め合いの授業を進める。
ウ）クラスの分割は、学力や人間関係を考慮して集団間等質、集団内異質とし、習熟度別の形態はとらない。
　さまざまな資質を持つ子どもの相互作用を大切にする。もちろん状況に応じて習熟度を導入することも選択肢から外してはならない。
　（学力異質のグループは算数が苦手の子ほど望む。子ども同士で気軽に聞ける。自分もできるようになりたいという意欲もわく。先生に教えてもらって自信をつけるより、子ども集団の中での学び合いで自信をつける。理解の速い子も、遅い子もいっしょに学習することを基本に、学ぶ意欲の回復や人間的な成長をめざす。）
エ）単元の後半の多くは未習事項の学習や既習事項の習熟、さらに発展的な学習などの時間にあてる。ここでは３クラスにとどまらず、学年の全学級を解体して個に対応したさまざまな 学習を工夫する。
オ）学習の振り返り、自己評価、相互評価を通じて学習の手応えを確認する。

３）３学期に算数ＣＲＴを全学年で実施し、学力実態を客観的に把握し指導方針を確立

平成 16 年度

○テーマ

教科と総合的な学習の時間による「確かな学力保障」

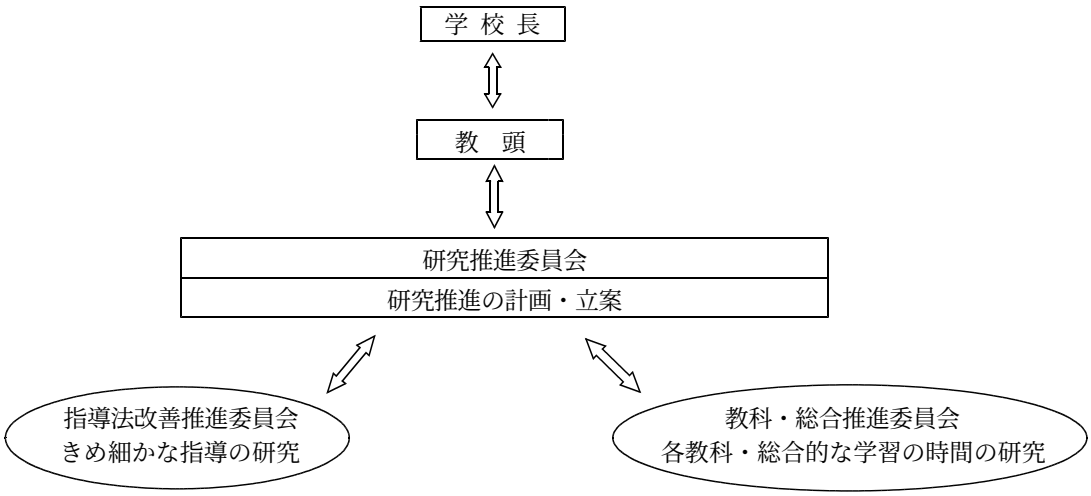
○研究の見通し（仮説）

教科と総合的な学習の時間を通して、またきめ細かな指導を通して子ども一人ひとりに「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」をバランスよく育てることが、「確かな学力」の向上につながっていくことを研究する。

○研究の内容・方法

①　子どもの実態から指導の課題を探り、個々の子どもの特性や個人差に対応した効果的な指導法の改善・学習形態の改善・教材の開発を研究…全学年
②　３０人学級における基礎的学力の定着の研究…１、２年
③　子どもの実態について話し合う時間を十分に確保し、理解度・習熟度、課題に応じた一斉、小集団、グループ、個別などを組み合わせた多様な学習形態とＴＴを活用した指導法、教材開発の研究…全学年
④　学級分割の少人数対応での指導方法や学習形態、教材開発の研究…３、４、５年
⑤　確かな学力保障と教科担任システムの検討…４、５、６年
⑥　ＣＲＴ（目標基準準拠テスト）による標準学力検査を実施し、補充指導や今後の指導計画を改善・強化

（３）研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・２年生活科まちかど博物館の探検活動で、地域には子どもたちが目を輝かせてとびつくような教材、人材が多くあり、「学ぼうとする力」が多く引き出された。また、聞き取りや体験の感想やまとめ、発表により「学ぶ力」が身についた。それにこれらの活動は、新聞やＴＶでも大きく取り上げられ、子どもたちに自信や自尊感情を育てた。
・福祉や平和学習で地域のお年寄りとの交流や聞き取りを行った。その出会いやふれ合いから多くのことを学び、お年寄りの見方が変わり始め、子どもたちの「学ぼうとする力」が向上した。また、お年寄りからの声かけや話により子どもたちが自分たちにもできることを考えはじめ、自発的に福祉保健センターやウイークエンドサークルのボランティア体験の催しに出かける子どもも出てきた。
・子どもたちに生きる力、確かな学力をつけるためには、自分が生きている現実社会のなかに入り、直接体験したり、人とかかわり、交流することが重要であることが、子どもたちの多くの作文やまとめの発表から確かめられた。とくに体験活動は「学ぼうとする力」「学ぶ力」の育成には影響が大である。
・生活科、総合的な学習の時間の充実が、保健室への来室の減少、不登校０といった状況を生んでいる。体験活動や参加体験型の学習による「学ぼうとする力」「学ぶ力」が子どもたちの生活や学習の安定化と関連のあることがわかってきた。
・少人数授業は子どもの人数も少なく、教師が一人ひとりの子どもの動きや理解度を把握しやすいため、つまづきに寄り添いやすく、学び直しを組織したりしながら「学ぼうとする力」「学ぶ力」を育て、「学んだ力」の定着を促進していることが、各学年の単元テストの平均点の向上などから明らかになった。

２．今後の課題

・「確かな学力保障」のためには、学習過程や学習後の個々の学力実態や学校の学力実態をできるだけ細かく診断して個人や学校の学力プロフィールを作成すること。学力診断に基づいた学校の自己点検・自己評価を実施し、学力向上施策を立案・計画・実行する必要がある。
・教科担任制を実施する中で、教科の専門性を追究し、また、学年の児童を学年部みんなの力で伸ばしていく協働体制を確立し、子ども一人ひとりへの「確かな学力保障」を充実させる。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

①児童の実態をもとにして立てた単元の指導目標、指導計画に沿って指導をし、その結果児童がどう変わってきたか、成果と問題点・反省点を単元毎に明らかにする。その際児童の自己評価、作文、日記、感想、作品など具体的な資料も参考にする。
②単元毎に個々の児童の学力診断を実施する。その際評価規準表にもとづいた評価問題による単元テストを活用する。
③補充指導や今後の指導計画を改善・強化するために、ＣＲＴ（目標基準準拠テスト）による標準学力検査を実施する。
④教職員一人ひとりにおける学習指導全般の自己点検・自己評価を実施し、交流して研究の共通理解や改善を推進する。

学習指導全般の自己点検・自己評価

氏名（　　）

☆該当する項目に、楽な気持ちで評価してください。主観的な評価で結構です。

Ａ　よくできている　　Ｂ　まあまあである　　Ｃ　あまりできていない

Ｄ　できていない

	自己点検・自己評価	A	B	C	D
教科等の学力定着状況	・国語科での基礎学力が定着している				
	・社会科での基礎学力が定着している				
	・算数科での基礎学力が定着している				
	・理科での基礎学力が定着している				
	・生活科での基礎学力が定着している				
	・音楽科での基礎的・基本的な内容が定着している				
	・図画工作での基礎的・基本的な内容が定着している				
	・家庭科での基礎的・基本的な内容が定着している				
	・体育科での基礎的・基本的な内容が定着している				
	・総合的な学習での聞く、聞き取る、かかわる力が身についている				
教科等の指導状況	・学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等の育成を重視した授業をした				
	・グループ別学習、ＴＴ、習熟度別学習、少人数指導等、学習形態や指導体制の工夫をして実践した				
	・学年の指導計画を共通理解して実践した				
	・基礎・基本を明確にし、定着させる指導を展開した				
	・興味・関心・学習意欲を喚起し、わかりやすい授業をするために、教材・教具の工夫をした				
	・体験的な学習を積極的に取り入れた				
道徳・生徒指導等の状況	・道徳の時間の授業時数を確保し、学習できた				
	・心のノートの活用ができた				
	・基本的な生活習慣、ルールを身につける指導ができた				
	・いじめ・不登校傾向等、児童の生徒指導をすみかに行った				
	・生徒指導の必要な児童の指導を効果的に進めるため家庭と協力した				
	・児童会活動等（学級会、係、当番、委員会、クラブ等）が主体的に活動できるように援助できた				
	・人権意識を高めるための指導計画を作成し、指導した				
	・体力・健康に関する指導を計画的・日常的に実施した				
	・児童に災害時の自己防衛力を高める指導ができた				
	・学校の施設・設備に注意を向け児童の安全に配慮した				
	・教科、道徳、特別活動等バランスのある授業時数の確保に努めた				

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

①４月２１日（月）　ＰＴＡ役員会で学力向上事業について説明
②５月　９日（金）　ＰＴＡ総会で学力向上事業について説明
③５月３０日（金）　学校評議員会で「学力向上フロンティアスクールの実践研究の概要」を報告
④６月　５日（木）　教育委員会の学校訪問で「学力向上フロンティアスクールの実践研究の概要」を報告
⑤６月１３日（金）　児童・民生委員の学校訪問で「学力向上フロンティアスクールの実践研究の概要」を報告
⑥６月２７日（金）　教育事務所長の学校訪問で「学力向上フロンティアスクールの実践研究の概要」を報告
⑦８月　６日（水）　くろしお教研課題別部会で「生活科・総合的な学習の時間で育てる学力」について報告
⑧８月　８日（金）　第６回教職経験１０年研修「教科指導研修」講演の中で「教科と総合的な学習の時間による確かな学力づくり」について報告
⑨11月11日（火）　学校開放日で授業公開
⑩２月　３日（火）　生徒指導教頭研修会で「生活科・総合的な学習の時間の充実と児童の生活の安定化」について報告
⑪２月１０日（火）　紀北教育研究所研究紀要に「生活科・総合的な学習の時間による確かな学力保障」についての研究実践を紹介
⑫３月　５日（金）　尾鷲市教育委員会研究紀要「尾鷲市の教育」にも紹介予定
⑬３月下旬　中間報告「生活科・総合的な学習の時間による確かな学力保障」を作成し管内各校、関係機関、関係団体へ配布予定

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　☐ １４年度からの継続校

【学校規模】　☐ ６学級以下　☐ ７～１２学級
☐ １３～１８学級　☑ １９～２４学級
☐ ２５学級

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ・Ｔによる指導
☑ 一部教科担任制　☐ その他

【研究教科】　☐ 国語　☐ 社会　☑ 算数　☐ 理科
☑ 生活　☐ 音楽　☐ 図画工作　☐ 家庭
☐ 体育　☑ その他（総合的な学習の時間）

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐ 無